

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●大阪杯はクロワデュノールが優勝

4月5日(日)におこなわれた大阪杯(G I)ではクロワデュノール(牡4歳/栗東・斉藤崇史厩舎)が1番人気に応じて勝利、2024年ホープフルS、2025年日本ダービーに続く3つ目のG Iタイトルを手に入れました。クロワデュノールの父キタサンブラックは2017年の大阪杯勝ち馬で、同レースのG I昇格前を含めると1960年ウイルデールと1969年ダテホーライ、2013年オルフェーヴルと2020年ラッキーライラックに続く3組目、G I昇格後の2017年以降では初の大阪杯父子制覇となりました。

●石神深一騎手の引退式を実施

石神深一騎手(美浦・フリー)が騎手免許の取消を申請し、4月30日(木)付で引退することとなりました。引退式は4月18日(土)の3回中山7日・最終レース終了後(16時45分頃)、中山競馬場のウイナーズサークルにて実施され、その模様はYouTube「JRA公式チャンネル」でライブ配信されるほか、グリーンチャンネル、BSイレブンでも放送予定。また4月11日(土)から19日(日)の競馬開催日には、中山競馬場地下1階センターコートにおいてパネル展示「石神深一騎手メモリアル展示」が開催され、先着計1万5000人にメモリアルリーフレットのプレゼントもおこなわれます。

●和田竜二元騎手の引退式を実施

本年2月28日(土)をもって騎手を引退し、3月1日(日)付で調教師となった和田竜二元騎手の引退式が、4月26日(日)の3回京都2日・最終レース終了後(16時35分頃)、京都競馬場のウイナーズサークルにて実施されることとなりました。引退式の模様はYouTube「JRA公式チャンネル」でライブ配信されるほか、BSイレブンでも放送予定。また4月25日(土)から5月10日(日)の競馬開催日には、京都競馬場ステーションサイド1階においてパネル展示「騎手・和田竜二メモリアル展示」が開催され、先着計1万5000人にメモリアルリーフレットのプレゼントもおこなわれます。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●カゼノランナーが川崎記念(川崎)を逃げ切ってJpn I 初制覇

川崎記念(Jpn I、4月8日、川崎、2,100^円)は、先手を取った3番人気のカゼノランナー(西村淳也騎手、牡5歳、父キズナ)がドウラエレーデ(大井)に2馬身差を付け、佐賀記念から重賞を連勝。1番人気のアウトレンジは3着、ホウオウルレーレットは4着、2番人気のディクテオン(大井)は5着、テンカジョウは7着、デルマソトガケは9着、ホウオウビスケッツは最下位の11着でした。

●セイクリスティーナがあやめ賞を圧勝【各地の主要3歳重賞】

あやめ賞(3月22日、水沢、1,400^円、牝馬)は、3番手から3、4コーナー中間で先頭に立ったセイクリスティーナ(父タリスマニック)が後続を5馬身引き離し、単勝元返しの支持に応じて5度目の重賞制覇。ネクストスター西日本(3月22日、高知、1,400^円)は、4番手を追走した2番人気の地元高知所属馬カツテナイオシサ(牡、父ヴァンセンヌ)が4コーナー手前で抜け出し、土佐春花賞に続く重賞2連勝を達成しました。

●ヤマニンチェルキラが参戦、4月15日の東京スプリント(大井)

東京スプリント(Jpn III、4月15日、大井、1,200^円)は、同じ大井1,200^円の東京盃を制しているヤマニンチェルキラが中心、以下ドラゴンウェルズ、ママコチャ、フェーンヒル(大井)、ヤマニアルリフラ、ハッピーマンの順に有力視されます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G 1 ドンカスターマイル〜ディーブインパクトの孫が制す

オーストラリアにおける秋のマイル王を決めるG 1 ドンカスターマイル(3歳上、芝1,600^米)が、現地4日にオーストラリア・ニューサウスウェールズ州のランドウィック競馬場で行われました。勝ったのは女性のJ.メルハム騎手(旧姓カー)を背に後方から鋭く伸びたシーザアリバイ(ハンデ49kg、牝3歳、P.ムーディー&K.コールドマン厩舎)。後方2番手から鋭く伸びて、G 1 コーフールドギニーとG 1 ローズヒルギニーの勝ち馬オータムボーイ(52kg)に4.29馬身差をつけました。ディーブインパクト産駒の英2000ギニー優勝馬サクソンウォリアーを父に持つシーザアリバイはこれで昨年11月から5連勝(全て重賞)。G 1は前走3月のランドウィックギニー(芝1,600^米)に続く2勝目です。

●G 1 ブルーグラスS〜ファーザーアドゥーが圧勝

4月4日にアメリカ・ケンタッキー州のケンランド競馬場で行われたG 1 ブルーグラスS(3歳、ダート1,800^米)はI.オルティスJr.騎手とのコンビで外の3番手でレースを進めたファーザーアドゥー(牡3歳、父ガンランナー、B.コックス厩舎)が最終コーナーで先頭に躍り出ると、そこから大きく差を広げて11馬身差で圧勝しました。ファーザーアドゥーは昨年11月のG 2 ケンタッキークラブS(ダート1,700^米)で重賞初制覇。今季初戦となった3月のG 3 タンパベイダービー2着からここに臨んでいました。